

大会名 Competition	第28回 能代カップ 高校選抜バスケットボール大会
NO. M-108	Year Month Day Time 2015 年 5 月 4 日 13 : 40
場所 Place	能代市総合体育館

発行：能代市バスケットボール協会
http://ncup.snowland.net



チームA		チームB
桜 丘	(19 1st 20 12 2nd 21 12 3rd 23 16 4th 25 OT)	明 成
	59 ●	89 ○

主審:Referee 加藤 誉樹 東京
副審:Umpire 及川 学 岩手
水木 順仁 秋田
テーブル・オフィシャル:Table officials
能代工

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F
4	×	鈴木 空	CAP	6	0	3	0	0	4	×	増子 優騎		2	0	1	0	0
5	×	桑 辰弥		16	3	2	3	1	5	/	庄司 勇人		5	0	2	1	4
6	×	中尾 良平		4	0	2	0	3	6	×	納見 悠仁		14	1	5	1	0
7	/	横山 遼太郎		-	-	-	-	0	7	/	富樫 洋介		0	0	0	0	0
8	/	井上 涼		9	0	2	5	1	8	×	八村 塁		22	0	9	4	2
9	×	高木 稜梧		13	3	1	2	1	9	×	足立 翔		6	0	3	0	4
10	/	Mbodj Lamine		-	-	-	-	0	10	×	三上 侑希	CAP	18	3	4	1	1
11	/	中泉 智貴		0	0	0	0	1	11	/	江戸保 賢人		0	0	0	0	0
12	×	Diagne Coulou		6	0	1	4	4	12	/	伊藤 修人		2	0	0	2	0
13	/	大井 崇幹		3	1	0	0	3	13	/	村上 孝太		2	0	1	0	0
14	/	今田 涼斗		2	0	1	0	1	14	/	江戸保 礼央		4	0	2	0	1
15	/	佐々木 駿		-	-	-	-	0	15	/	八村 阿蓮		4	0	2	0	2
									16	/	本間 紗斗		9	1	3	0	1
									17	/	清水 翔太		0	0	0	0	0
									18	/	相原 アレクサンダー学		1	0	0	1	3
コーチ		江崎 悟						0	コーチ		佐藤 久夫						0
アコーチ		林 永甫						0	アコーチ		高橋 陽介						0
合計				59	7	12	14	15	合計				89	5	32	10	18

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3ポイントシュート 2P:2ポイントシュート FT:フリースロー F:ファウル

試合開始前、桜丘はシュート中心の調整、明成はミニゲームで連携の確認を行うウォーミングアップ。
1Q、桜丘は#5桑の3P、明成は#8八村(塁)、#9足立の得点でゆっくりとした立ち上がり。桜丘の1-3-1ゾーンに対し明成はオフェンスリバウンドを支配するもシュートが入らず得点が伸びない。桜丘は明成のマンツーマンのプレッシャーからターンオーバーが多く、こちらも得点につながらない。しかし次第に明成のボール回しが機能し始め、#6納見から#8八村(塁)へのアリュウプダンクなどで加点する。桜丘も積極的なドライブでファウルを誘い、インサイドからの得点と#9高木の3Pで追いつき、19-20明成リードの均衡した試合となる。
2Q、ゆっくりとした攻防が続くが、次第に明成がリバウンドからの速攻を見せ始め、#10三上の3P、#5庄司のバスケットカウント、#6納見から#9足立の連携で21-33の12点差とする。タイムアウト後、桜丘はディフェンスをマンツーマンに変えて立て直しを図るがシュートが続かない。その間にもリバウンドを支配し続ける明成は#8八村(塁)、#10三上が得点を重ね26-39と引き離す。しかし集中が続かずターンオーバーが増え、桜丘は#5桑の3Pや#14今田の得点で追い上げ31-41明成リードで折り返す。
3Q、両チームともマンツーマンを継続。両チームともターンオーバーからのチャンスは多いものの、シュートが入らず無得点が続く。2分半が経過したところで明成#10三上がルーズボールから走ってバスケットカウント、ようやくゲームが動き始める。攻守ともに#9足立、#15八村(阿)を中心に全員でリバウンドを追う明成に対し、桜丘はインサイドの動きでファウルを誘うものうまくシュートにつながらない。その間に明成はターンオーバーからのチャンスを#8八村(塁)の2本のダンクや#10三上の3P、#6納見のアーリーオフェンスで得点に繋げ、43-64とリードを広げてこのQを終える。
4Q、桜丘も果敢にリバウンドに飛び込むようになるが、明成のマンツーマンをうまく攻められず、外角シュートに頼る単調な攻めになってしまう。明成はまだ走れるベンチメンバーを次々に投入し桜丘のマンツーマンを翻弄、#16本間#18相原が走り込んで点差を広げていく。桜丘は#9高木と#13大井の3Pなどで反撃を試みるが流れが続かない。結局、残り2分を切ってもフルコートでプレッシャーをかけるなど手を緩めなかった明成が59-89で勝利を収めた。

文責 【 石井 一生 】